

平成24年12月10日 【月曜日】

増毛山道あり方検討会が会合開く

維持管理方策等で議論

地域振興への効果も検証

【留萌発】体験トレッキングなどを実施している増毛山道の今後の在り方や利活用を検討する「増毛山道あり方検討会」は六日、留萌合同庁舎で本年度第二回の会合を開き、山道のニーズや今後の維持管理などについて意見を交わした。写真。

増毛山道は、安政四年（西暦一八五七年）に伊達林右衛門が私費を投じて開削し

た、増毛町別荘と石狩市浜益区を結ぶ約三十二キロの山脈を貫く道。増毛山道の会と振興局が協働で山道の復元を進め、二十二年度までに別荘と岩尾ルートの約十六キロ区間が開通。現在は一般開放をせずに、希望者を対象とした体験トレッキングなどを実施している。

同検討会は、NPO法人増毛山道の会の伊達会長を



はじめ、愛甲哲也北大農学研究院准教授、佐藤太紀観光連盟事務局長ら有識者六人で構成。座長は留萌振興局の三上環境福祉課長が務めている。

この日は、増毛山道の会

の小杉忠利事務局長が本年度事業の実施結果について報告したあと、同検討会メンバーが山道のニーズや維持管理、地域振興への具体的効果、今後の利活用などについて意見を交換。「愛好者からの来訪ニーズはある程度存在するが、地元での盛り上げに欠ける」「維持管理に必要な経費として参加料の徴収を検討しては」「民間事業者や他の観光・宿泊施設と連携できるか」などの意見が出されていた。